第5回 構造技術者世界会議－SEWC2015－ シンガポール開催　参加報告

The Report of SEWC 2015- 5th Structural Engineers World Congress in Singapore

国際委員会SEWC部会　寺本隆幸、大越俊男

1．はじめに

SEWCは、第1回が1998年にサンフランシスコで開催され、第2回が2002年に横浜で、第3回が2007年にバンガロールで、第４回が2011年にイタリア・コモで開催されました。今年は、第5回で、シンガポールで開催された。

2．SEWC2015 Singapore

SEWC2015 Singaporeは、10月19～22日に、The Raffles City Convention CentreのLevel 4の5室で、開催された。参加者は240名で、16ヶ国であった。

19日には、登録が16：00から行われ、WELCOME RECEPTIONが18:00-20:00に開催されたが、服装がSmart Casualと指定され、流石に英国式だなと感じさせられた。

三日間のプログラムは、午前中にKeynote Lecture、午後に論文発表が組み込まれ、これまでとは違った運営形式であった。

3．Keynote Lecture

Keynote Lectureは13遍で、三日間に分かれて、約45分で以下のように行われた。

20日は、1 - LESLIE ROBERTSON（米国）：構造システムで表現される建築、2 - GORUN ARUN（トルコ）：建物や構造物の保全、3 - JOHN KEUNG（シンガポール）：持続可能な建物と建設－行く末、4 - R SUNDARAM（インド）：コンクリートシェル屋根 - 歴史的な検討であった。午後に、招待講演として、BRUCE J. CHRISTENSEN（ドイツ）：持続可能な未来のためのコンクリートが行われた。

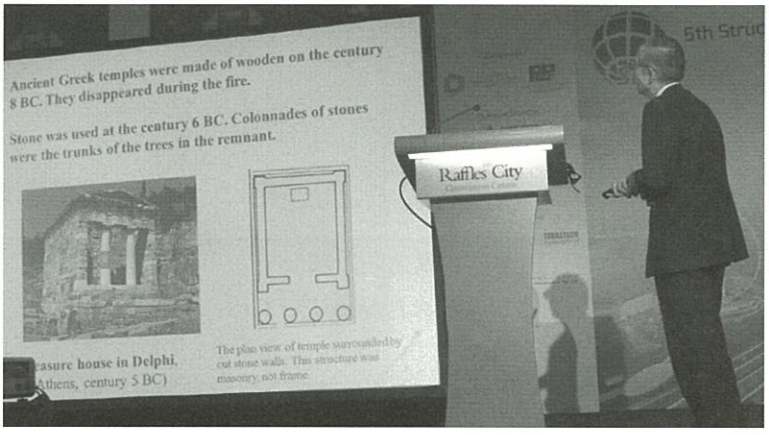

写真１　Keynote Lectureの発表風景

21日は、5 - TEH HEE SEANG（シンガポール）：マリーナベイでの複合リゾートホテルタワー建設のエンジニアリング的な状況、6 - SAWTEEN SEE（米国）：極東の2つの超高層ビル。どこに私たちを導くのか、7 - JIEMIN DING（中国）：超高層建築物の耐震設計での粘性ダンパーの応用、8 - NK SRIVASTAVA（カナダ）：自然の中での構造からのいくつかの考察、9 - RON SHAEFFER（米国）：崩壊であった。

22日は、10 - RENE MOTRO（フランス）：形状と力の組み合わせの芸術又は見える世界と見えない世界の合わせ方、11 - TOSHIO OKOSHI（日本）、地震と建築、12 - ENZO SIVIERO（イタリア）：橋梁設計における建設の調和、13 - JUAN GERARDO OLIVA SALINAS（メキシコ）：軽量構造物の持続可能な設計と建設に向けた貢献であった。

なお、川口先生が招待されていたが、都合が付かず、参加されなかった。

4．発表論文

発表論文は103編で、次のような20テーマで、4会場に分かれて発表された。

2　0日は、1. 鋼構造、2. 超高層ビル、3. 地震（1）、4. BIMとソフト、5. 地震と津波に対する構造設計、6. 持続可能と環境構造（1）、7. プレファブ、8. 最近の韓国建物の先端技術で、40編であった。

21日は、9. 橋梁インフラ、10. エンジニアリングにおける建築；ファサード設計など、11. 構造設計やモデル化、建設における革新（1）、12. 構造概念化とデザイン、13. 建設化学物質とコンクリートデザイン、14. 建設生産の持続可能性 - システム、15. 構造設計やモデル化、建設における革新（2）、16. 一般構造で、39編であった。

22日は、17. 建物や構造物の保全、18. 地震（2）、19. 持続可能と環境構造（2）、20. 複合構造で、24編であった。

5．開会式

開会式は、20日の9時から行われた。音楽と踊りで始まり、中国式の華やいだ会になった。授賞式で、SEWC Roland Sharpe MedalはLeslie Robertson,

USAに、Life Time Honorary MembershipはProf. M. Kawaguchi, Japanに授与された。川口先生が欠席されたので、大越が代理で受け取り、帰京後に、先生にお渡しした。

写真2　SEWC Inc. ボードメンバー

6．パーティー

21日の19:00 - 21:30には、GALA DINNERが行われ、Dress CodeはFormalであったが、招待者の夫人はともかく、黒い背広とネクタイ着用で許され、30年前のようにタキシード姿はなかった。料理には、ベジタリアン用、イスラム用があり、昼食や軽食にも、気配りがなされていた。

7．会議の運営

Singaporeでは、国際会議を開催することが国策で、会議運営会社が多数あり、この運営も会議運営会社に委託されていた。スポンサーには、プラチナとシルバー、ブロンズ、一般の4種類があり、相当の資金が集められていたようである。今までのように、スポンサーによる展示会は行われていなかった。また、招待者には、航空券（日本から約7万円）や宿泊費（約12万円）、参加費（約15万円）が提供されたが、これまでにはありえないことであった。Singaporeの物価は、日本の2倍程度であった。

8．SEWC Inc.

SEWC Inc.の会議は、20日の会議終了後に行われた。
参加したボードメンバーは以下の11名であった。1. Mr. R. Sundaram、2. Prof. N.K. Srivastava、3. Prof. Enzo Siviero、4. Prof. Toshio Okoshi、5. Prof. Ding Jiemin、6. Prof. SeungDeog Kim、7. Prof. Gorun Arun、8. Prof. Juan Gerardo Oliva Salinas、9. Er. LIM Peng Hong、10. Er. Abhishek Murthy、11. Mr. K.P. Pradeep。他に、Dr. Gian Carlo Giulianiが、帰国した。
メンバーのうち以下の4名は、連絡が付かず、1. Prof. Roland L Sharpe、2. Dr. James R. Cagley、3. Prof.A. H-S. Ang. 4. Prof. Sung Pil Chang、一定期間ののちに、名簿から削除することにした。

オブザーバーとして、森高会長と寺本委員が参加した。

議長・副議長は、以下のように再任した。R Sundaram, President、Enzo Siviero, Vice-President、Toshio Okoshi, Vice-President、K Srivastava, Vice-President。

SEWC Roland Sharpe Medalは、以下の4名に与えられている。i. Dr. Katsumi Yano, Japan. 2011、ii. R. Sundaram, India. 2011、iii. Dr. Gian Carlo Giuliani, Italy. 2011、iv. Leslie Robertson, USA. 2015。

Life Time Honorary Membershipは、以下の4名に与えられている。I. Prof. Roland L Sharpe, USA. 2011、ii.Dr. Katsumi Yano, Japan. 2011、iii. Prof. N.K. Srivastava, Canada. 2011、iv. Prof. M. Kawaguchi, Japan. 2015。

SEWC Journalが、SEWC Inc.のあるインドで、製本と電子本で隔年に発行されていることが報告された。

SEWC部会の活動報告が、インド、イタリア、中国、メキシコ、トルコの順で行われた。また、SEWC2017がメキシコのCancunで11月14～17日に開催され、SEWC2019 がトルコのIstanbulで開催され、SEWC 2021が中国の上海で開催されることが報告された。

終了後に組織委員会副議長のAbhishek MURTHY宅に招待された。海を見渡せるメゾネットで、二人のメードが迎えてくれた。

9．閉会式

閉会式が、22日の16：30から1時間開催された。
各SEWC部会の活動報告があり、特に、次回開催のメキシコは、パワーポイントで準備委員会の開催状況や、会議場の紹介をし、パンフレットを配布した。2年後にかかわらず、今までにない熱意が感じられた。また、中国は、6年後に開催予定の上海のビデオによる紹介を行った。

10．終わりに

Sundaram議長から、森高会長にSEWC Japanの立ち上げを依頼され、国際委員会で対応を行っている。先進国では、建設が一段落し、構造技術者が元気ないようであるが、前記の各SEWC部会では、旺盛な経済活動に応じて建設が活発に行われ、今までの先進国がリードしてきた国際会議に対抗するように、構造技術者が独自にSEWCの活動を行っている。JSCAは、どう活動するのか、議論が待たれている。